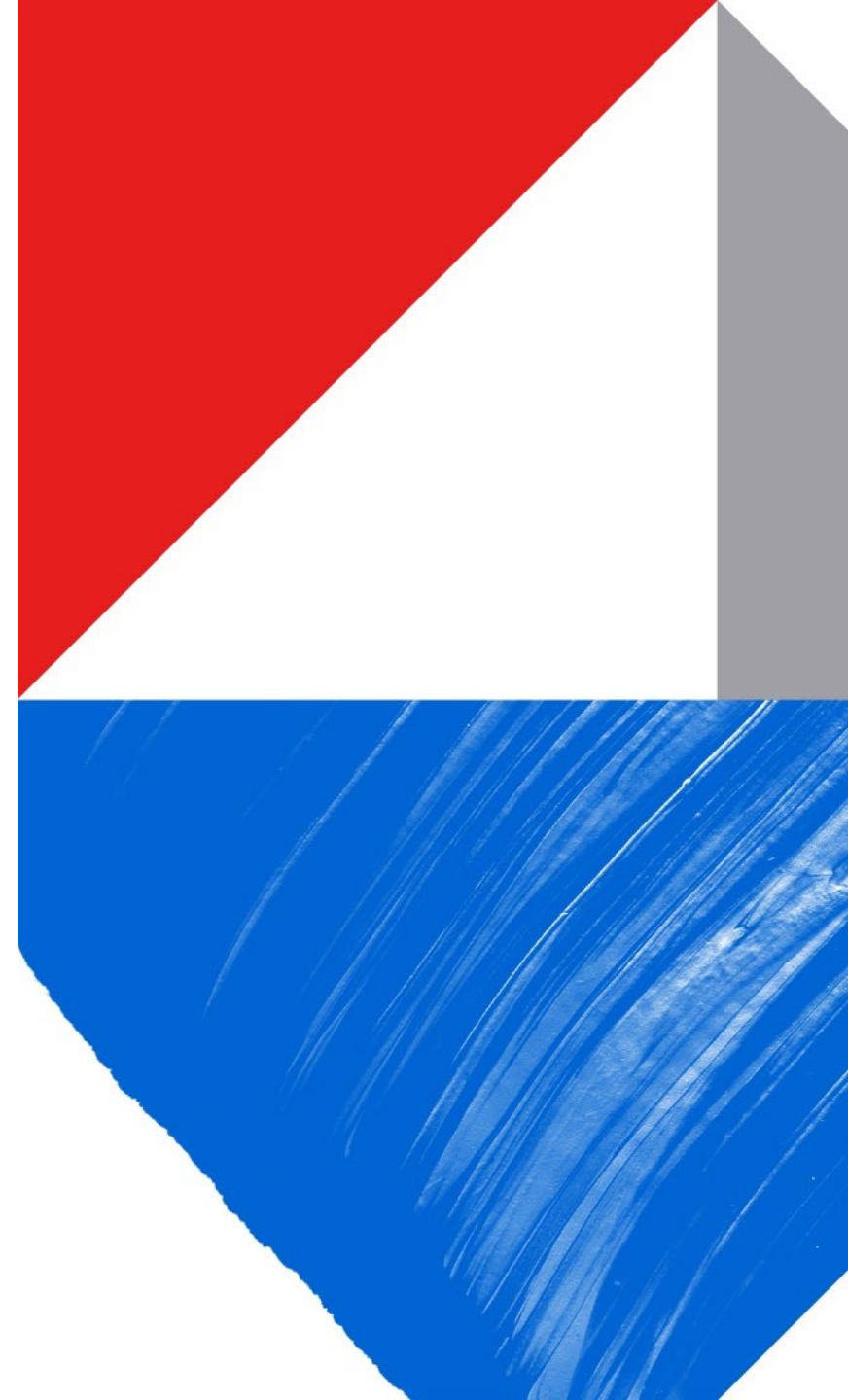


TOSHIBA

臨時株主総会に向けて

2022年3月
株式会社 東芝



注意事項

- この資料は、当社の戦略的再編(以下「本再編」)に関する情報提供を目的としてのみ作成されたものであり、日本、米国その他の地域において、当社、当社の子会社その他の会社の有価証券に係る売却の申込みもしくは購入申込みの勧誘を構成するものではありません。
- この資料には、当社グループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。
- これらの記述は、過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定及び所信にもとづく見込みです。
- 当社グループはグローバル企業として市場環境等が異なる国や地域で広く事業活動を行っているため、実際の業績は、これに起因する多様なリスクや不確実性(経済動向、エレクトロニクス業界における激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等がありますが、これに限りません。)により、将来予測に関する記述により明示又は黙示されたものとは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。詳細については、有価証券報告書及び四半期報告書をご参照ください。
- 注記が無い限り、表記の数値は全て連結ベースの12ヶ月累計です。
- 注記が無い限り、セグメント情報における業績を、現組織ベースに組み替えて表示しています。
- 当社はキオクシアホールディングス(株)(旧東芝メモリホールディングス(株)、以下「キオクシア」)の経営に関与しておらず、同社の業績予想を入手していないため、当社グループの財政状態、経営成績またはキャッシュ・フローの見通しにはキオクシアの影響は含まれておりません。
- この資料に記載のスピンオフの実行については、当社株主総会の承認が得られることや、関係当局の審査要求事項を満たすことを条件としております。
- 適用ある法令等(有価証券上場規程及び米国法を含みます。)や税制を含む各種制度の適用・改正・施行の動向、関係当局の解釈、協議、今後の更なる検討等その他の状況によっては、本再編の実施に想定よりも時間を要し、また、その方法等に変更が生じる可能性があります。

本日のご説明事項

01 会社提案の内容

02 株主提案に対する当社意見

Appendix

01

会社提案議案の内容

「戦略的再編」

スピンオフ
計画

- 2021年11月に発表したスピンオフ計画について、様々なステークホルダーとの対話を踏まえ、スキームを改良
- デバイス・ストレージ事業を新規上場会社としてスピンオフし、東芝/インフラサービスCo.とデバイスCo.を2つの独立した上場会社とする

キオクシア
株式

- 可能な限り速やかに現金化
- 手取金純額については、適用法令の範囲内で全額株主還元に充当予定
- 繰越欠損金の充当により、税メリットを享受可能

第1号議案の目的

- スピンオフ計画を含む戦略的再編の更なる改善を進めるために、株主の皆様との建設的な対話を行うことを目指す

本戦略的再編の最善かつ最も効率的な方法につき、株主の皆様からのご意見を伺って継続的な改善を目指す

本戦略的再編の最善かつ最も効率的な方法につき、
株主の皆様からのご意見も頂戴して、継続的に関係者と協議し、検討予定

コングロマリット
ディスカウント解消

事業特性に則した
キャピタル
アロケーション

専門的且つ
俊敏な経営

株主への
選択肢の増加

効率的な
ガバナンスの実現

ポートフォリオの
見直し

株主還元等

スピノフ計画を精緻化する過程で、2分割のスキームが最適と判断

東芝本体の上場維持にかかる不確実性を除去

必要となる経営体制が2つに減少することで、規律あるガバナンス体制の実効性の担保

分割コストの大幅な削減

上場審査における実務負担の軽減

健全な財務体質の確保

パートナー企業との提携の容易さ

本変更は、スピノフの決議要件の緩和のためではなく、上記などを総合的な判断

過半数の株主意思を最大限に尊重することを目的に、 普通決議による第1号議案を上程

決議要件

- 普通決議

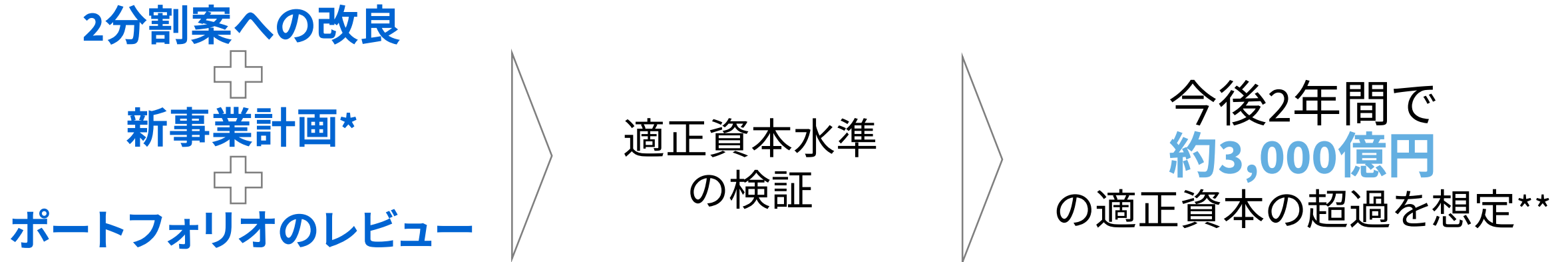
理由

- 株主総会における過半数の意思を尊重すべきと判断
— 特別決議を求める場合、賛成した過半数の株主の意向よりも反対した少数の株主の意向を尊重することになりかねない
- 産業競争力強化法に基づく事業再編計画の認定を前提とすれば、取締役会決議でも実行可能だが、株主総会に諮る予定

基本方針

- 適正資本水準を超える株主資本は、自己株式取得を含む株主還元の対象とする

追加還元実施の背景



- 3,000億円の還元実施を前提とした現在の2分割案は、適正資本水準を維持する事ができ、投資適格級の格付けを最低限の目標としている。格付け機関のリリースにある通り、過度の株主還元は、2つの新会社の財務健全性に悪影響を及ぼす

* 2022年2月7日に開示済みの事業計画を指す

** 2022年2月7日に公表した事業計画の円滑な遂行を前提に、今後2年間で3,000億円程度の適正資本水準を超える資本が見込まれる

02

株主提案に対する当社意見

第3号議案:

戦略委員会及び取締役会における戦略の再検討の件

当社取締役会は株主の皆様へ第3号議案への反対の議決権行使を推奨

3D

戦略委員会及び取締役会が、すべての企業価値向上策を2021年11月12日に発表された戦略的再編と比較・評価するため、検討手続を継続することを提案。

検討手続においては、

(i)非公開化又はマイノリティ出資に関して積極的に検討を行い、

(ii)すべての検討内容、受領した提案及び検討結果の詳細を株主に対して定期的に報告するものとする

当社

取締役会の推奨:反対

- ✓ 当社は本戦略的再編が最善の方策であると考えている
- ✓ 当社は他の戦略的選択肢を排除していないものの、このような選択肢をどの程度検討するかは経営判断に委ねられている
- ✓ 情報の全面開示は当社及び株主の利益に反する

提案者による批判への当社の反論(1/2)

3D

1

- この推奨に至ったSRCのプロセスには欠陥があり、推奨内容を信頼することはできない

2

- 当社が戦略投資家を検討の対象から除外したことや、マイノリティ出資に関する金融投資家との協議を打ち切ったことは、「臆測」に基づいている

3

- SRCの執行部からの独立性に重大な疑問が生じている

当社

- SRCは、5カ月間に渡り週次で18回協議を行い、SRCメンバー間及び外部者と50回以上の協議を実施した。このようにSRCは、多大な時間と労力を費やし、徹底的かつ包括的に、戦略的選択肢の検討を進めてきた

- 戦略投資家との協議に関する決定は、戦略投資家からの反応や金融投資家との入念な協議を踏まえた判断である
- 様々な戦略的選択肢をSRCが比較・検討していた段階において、不相応な時間とリソースを費やして正式なデュー・ディリジェンスの機会を提供することは必ずしも適切な対応とはいえない

- 主張の理由は明らかにされていない。上記のとおり、SRCはそのアドバイザーとともに独自のプロセスを実施し、今後の方向性を検討するために何度も協議を行った

提案者による批判への当社の反論(2/2)

4

3D

- 「執行部は戦略的な投資家であるPEファンドに対して極めて保守的な事業計画を示した」として、当社がPEファンドに示した事業計画は、PEファンドが興味を示すような野心的な事業計画ではなかったと指摘

5

- 執行部がSRCに対して示した、当社グループの所有形態の変更から生じる可能性のある当社の事業への影響についての「懸念」は、「一方的な悲観的前提に基づくものであり、潜在的な投資家であるPEファンドに懸念を持たせるに至ったことは間違いない」と批判

6

- SRCの推奨は、「当社において「拙速な判断」がなされ、また、当社に提示される可能性のある所有形態の変更に関する検討が不十分であった」

当社

- 当社の事業計画は株主の皆様、取締役会及びSRCからの要請を考慮した上で、執行部として実現可能性と、達成可能性を両立させながら鋭意作成したものである。同計画は2021年11月12日に公表されたものと重要な差異のあるものではない

- かかる懸念は公開会社の非公開化に関連して考慮すべき正当な留意点である。この点については、SRCも検討を行い、各PEファンドとも協議を行った。SRCは、PEから聴取した意見を、レビューにおいて考慮した

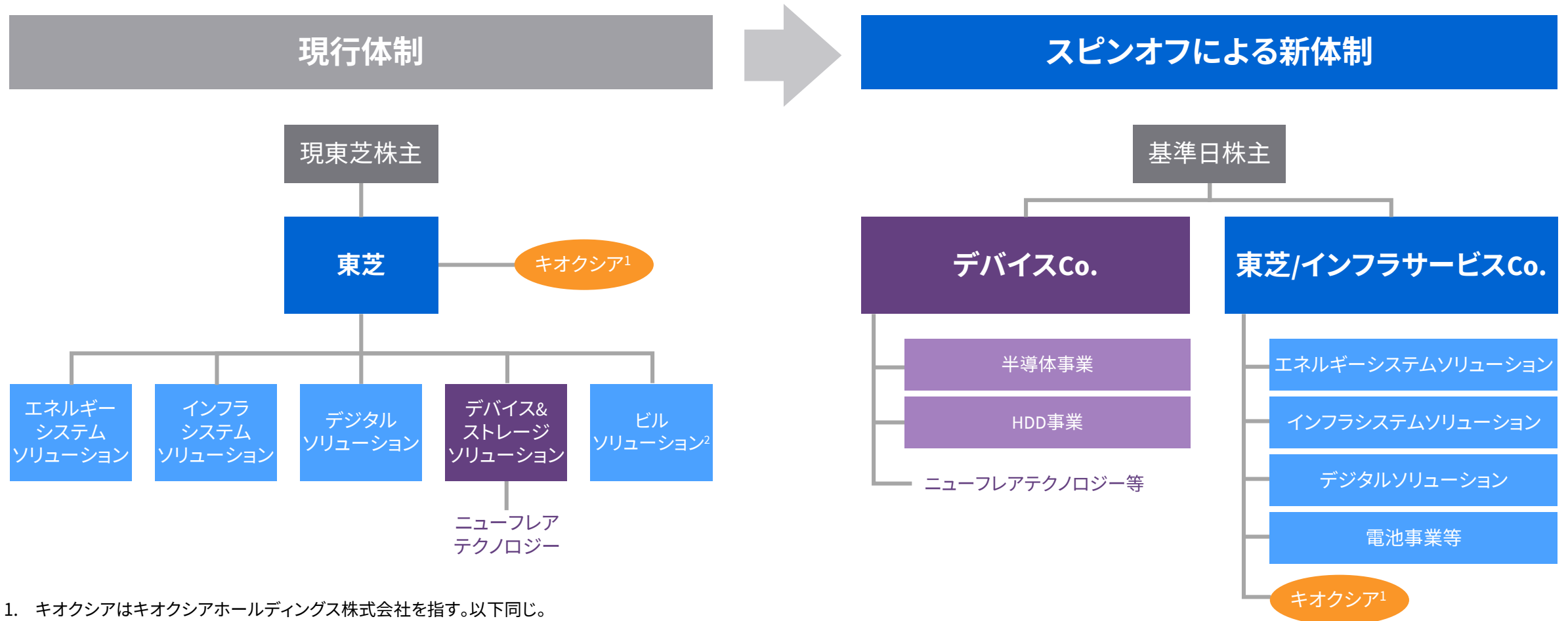
- 提案者はこの結論に至る具体的な根拠を何ら提示していない。以上の理由により、当社は、この結論は根拠を欠くものとする

TOSHIBA

Appendix

スピノフのスキーム改良 (3分割から2分割に変更)

デバイス&ストレージソリューション事業をスピノフし、2社へと分割。
東芝はインフラサービス事業等、デバイスCo.に関連しない資産等を管理



1. キオクシアはキオクシアホールディングス株式会社を指す。以下同じ。
2. ビルソリューションは東芝エレベータ、東芝ライテック、東芝キャリアの3社を指す。以下同じ。

尚、上場会社である東芝テックは上記体制図には含まれていない

戦略委員会による7つの推奨への対応

11月に取締役会が受領した戦略委員会からの推奨に対し、鋭意対応を進めている

7つの推奨内容

対応内容

- | | | |
|---|--|---|
| 1 | スピノフ計画執行のチーム組成
(外部専門家含む) | 執行及びPMOチームによる推進体制を確立
(外部アドバイザーも起用) |
| 2 | キオクシア株式の現金化及び株主還元、
東芝テックの保有に関するレビュー | キオクシア株式は法規制等遵守の上、最大限の現金化、株主還元を目標。
東芝テック自身の中長期の成長プランを促進すべく、実務上可能な限り短期のうちに東芝テックと協働 |
| 3 | レバレッジの引き上げ及び
自己株式取得の実施 | 定期的な検証に基づき適正な資本水準を超える資本は還元
分割後の適切な資本構成を踏まえた資本政策や財務規律を立案 |
| 4 | 各社での適切な
マネジメント・チームの組成 | 各社に適したマネジメントを選定し、新たな経営体制を構築予定 |
| 5 | 潜在的候補者との
パートナーシップ機会の模索 | 選択肢のひとつとして継続検討中 |
| 6 | 事業売却を含むポートフォリオの
見直しとコスト削減 | 非注力事業を特定して、外部化を速やかに実行予定。
またスピノフに関わる取引コストをコストカットによりオフセット |
| 7 | ESG強化、ガバナンス強化委員会の
推奨策の実施 | ガバナンス強化委員会の報告に基づき、再発防止策を策定済
2050年までのカーボンニュートラルの実現を目指す。 |